作成日：令和８年７月16日

令和８年度　第２回　高松圏域自立支援協議会　就労支援部会議事録

日付	令和８年７月９日（木）
時間	１３時３０分～１５時００分
開催会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター研修室
参加機関等	Doやまびこ、ウィズくすがみ、ピーノ、サスケ設計工房、サスケアカデミー、ワイワイ創造館、ほまれの家高松店、ANSA、オリビオ、あじさい、ハピクル、コンサフォス、氷上ファクトリー、せんり、パーソルネクステージ、香川大学教育学部附属支援学校、中部支援学校、高松支援学校、香川東部支援学校、高等技術学校、かがわ総合リハビリテーションセンター、児童発達支援センターKUSUの木、ウェルビー、ヒトトコ、ラ・レコルト、LITALICOワークス、障害者就業・生活支援センター共生、障害者就業・生活支援センターオリーブ、香川障害者職業センター、相談支援事業所ウェルネスサポート、高松市社会福祉協議会、三木町社会福祉協議会、地域生活支援センターほっと、ライブサポートセンター、障害者生活支援センターあい、障害者生活支援センターたかまつ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点、高松公共職業安定所、高松市障がい福祉課 順不同　　計40名

議題１：本日の概要説明、新規加入事業所　『ハピクル』紹介	
議事	＜新規加入事業所ハピクル＞ ・こがね製麺所が母体。R8年３月に立ち上げ。製麺、箱詰め作業等を行う。

議題２：就労継続支援Ａ型事業　概要説明、Ａ型事業所管理者によるトークセッション、質疑応答	
議事	＜Ａ型事業所の現状と課題を考える＞　講師：DOやまびこ 〇講師作成のパワーポイントをもとに進行 ・目的：Ａ型事業所の本質と制度的背景について理解を深めたうえで、就労支援とは何かについて考える機会にする。Ａ型事業所のみならず、就労継続支援事業の健全な運営促進につなげることを目的とする。

	・A 型事業所には、企業的就労（雇用契約に基づく就労の場、所得保証が必要）と福祉的就労（働く訓練の場、一般就労への移行を目指すステップアップの場）の 2 つの意味合いがある。最低賃金の支払いばかりがフォーカスされ福祉的就労の意味合いが置き去りにされると、不適切な運営につながる可能性がある。 ・制度ビジネス、不適切運営事例の紹介。 ・不適切な運営を行う事業所は一握りではあるが、利用の過程にそこへつないだ支援者の存在もある。制度の本質を理解して利用者へ伝えるのは支援者の役割でもある。 ＜トークセッション＞ 〇参加者 ・司会進行：Do やまびこ ・登壇事業所：ANSA、ウィズくすがみ、ピーノ、オリビオ 〇高松市内で不適切運営を行った事業所が参入した当時の思い ・軽作業のみで最低賃金を支払うということで、どのように生産性を上げるのか気になった。 ・同事業所のことをきっかけに、他のＡ型事業所を見学するなど、周りを知ることができた。 〇Ａ型を開所してみての思い ・施設外就労がメイン。社会に出る意義を感じる。一般就労に結びつく方もおられ、やりがいを感じる。 ・建築業からの参入だが、障害のある方と一緒に働きたいという思いで立ち上げた。 ・他県で学んだ先進的な当事者への考え方、接し方を香川に持ち込みたいという思いで始めた。 〇全国的な不適切運営の事例について ・当時、その事業所へ見学に行った。活気のある事業所で、幅広い業務を提供しており、すごいと感じた。報道では、同事業所の良い部分が切り取られていたため、報道の在り方に疑問を感じた。働いている人は一生懸命で、外部から見学等で客観的に見ても違和感はなかった。 〇現場が悪いわけではないという点でのご意見を。 ・企業は、内部監査をしている。コーポレートガバナンスに関して、福祉の事業所は未熟なところがあるのかもしれない。 ・当法人は、全国に数十か所の事業所を展開している。制度に関しては、担当部署があり、会社として行政に確認を行い、全国の現場に周知している。記録も残している。また、社員や利用者が、本社に直接意見できるような仕組み作りをしている。

	○事業所選びの際、気を付けるところがあれば。 ・事業所の雰囲気、挨拶、利用者の様子。情報公表をしているかどうか。 ・施設外就労先を選べるようにしている、有資格者が多い、利用者ミーティングの開催、SST。 ・会社の裏側は見えないもの。雰囲気は一つの物差し。経営者の考えが直接聞けることが望ましい。 ・雰囲気、本人のしたいことのために何ができるか。 ・今日のような場（就労支援部会）に出てこられるかどうかも一つの指標。 ＜質疑応答、ご意見等＞ ○どんなときに相談支援専門員へ報告しているか。 ・随時伝えて連携している。 ・なるべく事業所のことは、事業所内で解決を図る。それ以外のことは相談支援専門員と連携する。 ・まずは自分たちで課題検討をする。労働を重視している。 ・トラブル等があれば、相談支援専門員や家族と一緒に考えている。 ○行政が必ずしも正しいのかどうかわからない。一例に、事業所の総量規制が議論されているが、これは不適切な事業所も守られることになりうる話。適切な運営をしていないと、事業をできなくなるような、しっかりとした地域づくりが求められる。 ○高松市には、B 型事業所が約 100 か所もある。顔の見える関係づくりも難しいような数であるが、適切な運営に向けてすべての事業所で連携できればと考える。 ○卒業生を事業所さんへ送り出す教育の立場として、事業所さんの思いや福祉制度に触れることができよかった。 ○就労選択支援について、A 型事業所はどのようにお考えか。 ・どんどん展開すればいい。 ・サービス利用の実績が積みあがることで、本当のところが見えてくる。 ○B 型から A 型へと進むには、どのような条件だと受け入れをしてもらいやすいか。 ・タイミングは慎重に検討したい。 ・休まずに出てくることができるかどうかが重要。 ・まずは働くことにフォーカスする。そこにどれだけ福祉的な要素を入れることができるか考える。

次回予定：令和 8 年 9 月 16 日（水）　13:30～15：00

かがわ総合リハビリテーションセンター研修室

内容：グループワーク（5 月に実施したグループワークからテーマを絞り検討を深める）